



創立1880年
〒169-0051
東京都新宿区西早稲田2-3-18
日本キリスト教会館6階
Tel 03-6302-1960
URL http://tokyo.ymca.or.jp/
発行所 公益財団法人 東京YMCA
発行人 菅谷 淳

東京YMCA

7/8

2020年

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体的全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

東京YMCA創立140周年記念

“日本のインターネットの父” 村井 純さんが語る

＜オンライン・インタビュー＞

村井 純さん

慶應義塾大学教授。1955年生まれ。1984年、日本で初めてネットワークを接続し、インターネットの技術基盤を作った。その後もネットワーク上で日本語を使えるようにするなど、日本で運用・普及に貢献してきたことから「日本のインターネットの父」と呼ばれる。現在も内閣のIT総合戦略本部員ほか多数の委員を務め、国際学会等でも活躍中。2013年米ISOC「インターネットの殿堂」に選ばれる。2019年フランスの「レジオン・ドヌール勲章」受章。東京YMCAアドバイザー。



東京YMCA創立140周年およびYMCAキャンパ100周年を記念し、「日本のインターネットの父」として知られる村井純さんに、YMCAで経験したこととインターネット開発の経緯、これからの社会について伺いました。

（聞き手 東京YMCA総理事・菅谷淳）

YMCAでの学びと

これからの社会

YMCAで得た人間観

村井さんはYMCAのキャンパに多数参加されていますね。

私は小学生の時から神田にあった東京YMCAのプールに通い、キャンパにも行きました。中学1年生から高校3年生までは毎年、「野尻学荘」という2週間のキャンパに参加。高校1年のときにはその交換プログラムでカナダのYMCAの「キャンパ・エルフィンストン」に行き、翌年にはカナダのメンバーたちが来日して、うちにもホームステイに来ました。

大学1年からはキャンパカウンセラーを務め、大学2年の時には「ICCP（インターナショナル・キャンパ・プログラム）」に応募してニューヨークでトレーニングを受け、アメリカでキャンパカウンセラーをしました。

6月から3か月間の研修だったので大学の試験も受けられず、私は留年したんです。この年も含めて大学時代は野尻キャンパでも、まるで駐在スタッフみたいに夏中ずっとキャンパ場にいました（笑。ですから特に高校から大学にかけて、人生の大きな部分がYMCAで育ったと思っています。

そこを学んだかという、2週間もキャンパをしていて、隠しよるがないのですよね。人間が裸になる。普通の都会の日常生活は、なんとなく装ったり、人の見にくれを気にしたりしますが、キャンパでは全部バレる。したがって裸の人間を理解する。人間の本質を理解する。そんな基本的な力ついているのかな。人を理解して関係を築く習慣ついているのか。

そういう力がキャンパで身についたと思います。それはずっと今日に至るまで、今でも生きています。今、コロナ後の「ニューノーマル（新しい日常）」をどうするか、世界でも日本でも毎日会議をしていて、私は今日もこれ六つ目の会議なのですが、そういう会議の中でも結局その人間観に行きつくのです。それ位キャンパのインパクトが大きかった。このことは、キャンパに参加した人はだいたい共通の思いだと思います。

国際的つながり 多様な友人たち

私はさらに特別な経験をしておりましてね。先ほどのカナダとの交換キャンパでうちにホームステイしたゴードン・フランクというメンバーに、20年以上後に偶然再会したのです。京都大学の先生が突然連絡をきて「今、医学部の学会をやっているが、カナダから来ている医者が、村井純って知っているかと言っている」と言うので、それがゴードンでした。それで彼に会ったら、娘が3人いて、今度キャンパ・エルフィンストンに行かせるというのです。私が参加したときはボイスキャンパでしたが、カナダでは共学になっていたので、私も娘が2人いるのでそれ

じゃあ一緒に行かせようということになり、けっこう2世代に渡って同じキャンパに行つたわけです。さらにうちの娘はその後バンクーバーで働くことになり、今もゴードンファミリーとは付き合い合っています。不思議な縁です。

それからも一つお話ししたいのは、キャンパには、耳の不自由な子どもたちも来ていたということです。その経験があったから、私はインターネットを開発するとき、目や耳の不自由な方のアクセシビリティや多様性について、かなり意識してきました。目の見えない人がインターネット上の文字や画像を読めない問題を、「Webアクセシビリティ」というのですが、私はキャンパで多様性を経験させていただいたので、大学でも今でもずっとそれに携わっています。こういう問題には、自身に障がいのある研究者が携わる傾向があるのですが、私はキャンパでの経験をもって、この問題に取り組んだことになりました。

このように、私はYMCAのキャンパで、国際的な体験や多様性の経験など、たくさんを経験させていただいたと思っています。YMCAは、非常に多感な時期に人間的成長する、人格的に成長するといいますが、そういった社会教育をずっとやってきています。今は北

米のICCPはやっていませんが、台湾の学生たちが日本に来るICCPJはやっていきます。

村井さんは大学時代からインターネットの開発に尽力されていますが、そもそもその経緯を教えてくださいませんか。

私は、大学では工学部に入りましたが、コンピュータは大嫌いでした。高校の時、大学のコンピュータを使うクラブがあったのですが、当時のコンピュータは大きくて、順番を待つて計算をお願いするよう、まるで人間が支配されているような印象がありました。私はキャンパに行つて人間に関心があつたし、やっぱり人間が大事で人間が中心じゃなければいけないと思つていたので、「機械のくせに偉そうな」と思つたわけです。それが1970年代になると、コンピュータも小型化して、ワープロなども作られてきた。それで人間が真ん中にいて、周りにコンピュータがあるというイメージを持てるようになった。そこで、実際に人間を中心にすえて、コンピュータが人間のために何か役立つようなことをやろうとすると、このコンピュータはつながつてなければいけないと思つた。それで大学

「まさか、こんなことになるとは…」新型コロナに揺れる半年を振り返る時、この思いを禁じ得ない。折しも本号の発行は東京オリンピックの真最中だ。アスリートが熱戦を繰り広げ、街は観戦者でにぎわっていた。オリンピックの最大の魅力は世界中から人が集まることだと思う。子どもの頃は初めて聞く国名に地図を広げ、新世界を発見したような気がしたものだ。1964年の日本人も世界の広がりとその一員であることを実感したに違いない。今日と比べ訪日外国人数が1%程度の時代である。私が勤める早稲田奉仕園は留学生寮を運営しているが、春以降は実に閑散とした状況だ。YMCAもキャンパなどが制限されるのだから困つたものだ。国際機関では協力よりも国内政治が優先され、感染者への差別、医療や福祉施設への誹謗中傷が後を絶たない。新型コロナはいずれ脅威ではなくなるだろうが、人間の攻撃性、排他性に効く薬はどうか。「様々な人が集う場、真の出会いの場」を提供すること、私たちの仕事があります。重く感じられる。

（評議員 西川嗣志）

インターネット開発の経緯

村井さんは大学時代からインターネットの開発に尽力されていますが、そもそもその経緯を教えてくださいませんか。

私は、大学では工学部に入りましたが、コンピュータは大嫌いでした。高校の時、大学のコンピュータを使うクラブがあったのですが、当時のコンピュータは大きくて、順番を待つて計算をお願いするよう、まるで人間が支配されているような印象がありました。私はキャンパに行つて人間に関心があつたし、やっぱり人間が大事で人間が中心じゃなければいけないと思つていたので、「機械のくせに偉そうな」と思つたわけです。それが1970年代になると、コンピュータも小型化して、ワープロなども作られてきた。それで人間が真ん中にいて、周りにコンピュータがあるというイメージを持てるようになった。そこで、実際に人間を中心にすえて、コンピュータが人間のために何か役立つようなことをやろうとすると、このコンピュータはつながつてなければいけないと思つた。それで大学

赤三角

「まさか、こんなことになるとは…」新型コロナに揺れる半年を振り返る時、この思いを禁じ得ない。折しも本号の発行は東京オリンピックの真最中だ。アスリートが熱戦を繰り広げ、街は観戦者でにぎわっていた。オリンピックの最大の魅力は世界中から人が集まることだと思う。子どもの頃は初めて聞く国名に地図を広げ、新世界を発見したような気がしたものだ。1964年の日本人も世界の広がりとその一員であることを実感したに違いない。今日と比べ訪日外国人数が1%程度の時代である。私が勤める早稲田奉仕園は留学生寮を運営しているが、春以降は実に閑散とした状況だ。YMCAもキャンパなどが制限されるのだから困つたものだ。国際機関では協力よりも国内政治が優先され、感染者への差別、医療や福祉施設への誹謗中傷が後を絶たない。新型コロナはいずれ脅威ではなくなるだろうが、人間の攻撃性、排他性に効く薬はどうか。「様々な人が集う場、真の出会いの場」を提供すること、私たちの仕事があります。重く感じられる。

キャンプ100年 感謝報告

■キャンプ100年Tシャツプロジェクト



キャンプ100年の記念すべき年にもかかわらず、新型コロナウイルスのため例年どおりのキャンプが実施できなかった今夏、東京YMCAはキャンプを楽しみにしていた子どもたちに記念Tシャツをプレゼントしようと、「キャンプ100年Tシャツプロジェクト」を実施しました。これは、キャンプの思い出を大切に、再開できる日まで元気に過ごして欲しいと願って、昨年度の参加者の内で希望した方にプレゼントしたのですが、プロジェクトを知ったボランティアリーダーOBOGほかワイズメンズクラブの方など計168人がこれに賛同して支援くださり、約1000人の子どもたちとリーダーにTシャツを届けることができました。ありがとうございました。

■キャンプ100年記念「トランプ」も作成



在宅で過ごす時間が多い子どもたちに、少しでも楽しい時間を届けたいと、東京YMCAはこの度コミュニティーセンタースタッフの似顔絵入りのオリジナルトランプを作成しました。ボランティアリーダー3人が描いた13人のスタッフの似顔絵とメッセージを、デュプロ株式会社が無料で印刷し素敵なトランプに仕上げてくださいました。このトランプは、各コミュニティーセンターで配布しています。お気軽にお問合せください。

キャンプの思い出募集中

みんなで語るキャンプ100年



キャンプ100年を記念して「キャンプの思い出」を募集しています。作文でも、絵でもかまいません。楽しかった思い出、忘れられないエピソード、これからの期待など、自由に書いてYMCAに送ってください。たくさんの思い出やメッセージをお待ちしています。

締切りは2021年3月末日まで。
問合せは、南コミュニティーセンター
電話03-3420-5361



詳細は下記ページでご確認ください。
<http://tokyo.ymca.or.jp/camp/2020/06/20200623.html>

II面より

4年の頃からコンピュータネットワークの研究を始めたのです。

ネットが生んだグローバル空間

その後インターネットでコンピュータをつないでいくとき、どこまでつながるか考えたわけですが、私たちは国境をまたたく意識しないで、人類への責任や地球への責任などを考えながら作っていったのです。だからインターネットは国境のない、人類にとってはじめての真のグローバルな空間になりました。

「WIPO」(ワイポ)「ワールド・インターネット・オブ・オーガニゼイション」という国連組織でインターネットに関する協議をした時、幹部の人が「はじめて本当にワールドドットドットを経験したよ」と言ったので、98年頃でしたが、国連は国と国とのインターネットは調整はするけれども、それはグローバルとは違う。国家間の交渉では貿易問題などがからむけれど、インターネットにはそれが無い。そういう意味でインターネットは、これまで人類がもつていなかった真のグローバルな空間を作ったというわけです。

そのグローバルな空間は、民主主義とも違う。もつとプリミティブな、地球があつて人類が生きているという、ダイレクタなこの地球の空間です。だからインターネットの重要な使命は、グローバルで持続可能なこと。今「SDGs(持続可能な開発目標)」がうたわれています。地球と人類の持続性や次世代への責任などにつながるような意識で、インターネットを開発してきたと思うのです。

時折、「わが国がインターネットを管理する」と言います。国もありません。インターネットはナショナルイズムで壊してはいけないのです。私はこれをいつも主張しているのですが、その根拠にはやはり「人間を大事にしなければいけない」という、YMCAにつながるものがあるわけです。

期待されるのは「ネットの善利用」。昨年2019年は、インターネットが生まれて50年、WWW(ワールド・ワイド・ウェブ)ができて30年という記念の年でした。いろいろなシンポジウムなどで、「次の30年、50年、一番大事なことは何だろう」という議論がされたのですが、すごくたくさんの方が「エシカル・ユース(etical use)」つまり「善利用」というのをいいます。これまでに30年間、インターネットが発展していくエンジンとなったのは「経済」でした。特に90年代後半にヤフーなどの広告モデルができてからは、インターネット・マーケティングを中心にしたビジネスができて、それまでとは全然違う経済が生まれてきた。グローバルなビジネスができるようになって、ステールが変わった。

一方で、アブユース(濫用)が増えしてきた。グローバルアマゾンもあつた。意味でのアブユースはあります。個人の買値履歴などを検索エンジンで記録して、インターネット上でもうけていくわけ。さらにはサイバーアタックや、サイバーテロなど、悪用する人たちもいる。

「見つけ直す」。今回のコロナ禍では、インターネットが大活躍しました。テレワーク、オンライン会議、情報共有など、インターネットがなかったらもつと大変だったと思います。われわれ開発者の内輪では、「インターネットが開発が間に合つてよかった。完全じゃないけれど」と言っています。生意気言うなど言われそうですが、人にとって大事なことに使います。「社会的に良いことに使いますか?」「人にとって大事なことに使いますか?」

「これからの先デジタル革命」。20年前は、今のようない時代がくるとは思いませんでした。これからの20年後も、我々に想像できないような時代がやってくるのでしょうか。私自身もこれだけ無線の利用が広まるのは予想していませんでした。こんなに電波が自由に使えるようになって、スマホが普及するとは思っていませんでした。

「デジタル革命」。20年前は、今のようない時代がくるとは思いませんでした。これからの20年後も、我々に想像できないような時代がやってくるのでしょうか。私自身もこれだけ無線の利用が広まるのは予想していませんでした。こんなに電波が自由に使えるようになって、スマホが普及するとは思っていませんでした。

「期待と可能性」。今後のYMCAへの期待や要望をお聞かせください。今回のコロナ禍で、授業やイベントなどもオンラインでやるようになっていますが、それによって明らかに違つてきたのは、どこからでも参加できるということですね。オンライン会議なら世界のどこからでも参加できるし、たくさんの方が参加できる。そういう地理的な制約が解けることが、YMCAの活動にどう活かされてくるのか。

「期待と可能性」。今後のYMCAへの期待や要望をお聞かせください。今回のコロナ禍で、授業やイベントなどもオンラインでやるようになっていますが、それによって明らかに違つてきたのは、どこからでも参加できるということですね。オンライン会議なら世界のどこからでも参加できるし、たくさんの方が参加できる。そういう地理的な制約が解けることが、YMCAの活動にどう活かされてくるのか。

「期待と可能性」。今後のYMCAへの期待や要望をお聞かせください。今回のコロナ禍で、授業やイベントなどもオンラインでやるようになっていますが、それによって明らかに違つてきたのは、どこからでも参加できるということですね。オンライン会議なら世界のどこからでも参加できるし、たくさんの方が参加できる。そういう地理的な制約が解けることが、YMCAの活動にどう活かされてくるのか。

「期待と可能性」。今後のYMCAへの期待や要望をお聞かせください。今回のコロナ禍で、授業やイベントなどもオンラインでやるようになっていますが、それによって明らかに違つてきたのは、どこからでも参加できるということですね。オンライン会議なら世界のどこからでも参加できるし、たくさんの方が参加できる。そういう地理的な制約が解けることが、YMCAの活動にどう活かされてくるのか。

学校法人東京Y M C A学院 役員改選

学校法人東京Y M C A学院 役員一覧

【理事】	若槻史郎(理事長)	大谷博愛	高橋伸	菅谷淳	堀江和広	小野実	湯浅慶
【監事】	松下欽三	篠澤忠彦	【評議員】	若槻史郎	香取良和	矢野照子	藤井寛敏
	久保田貞視	伊藤幾夫	大沼謙一	高橋伸	大村洋永	野田沢	相川達男
	金子賢司	菅谷淳	駿河幸子	草分俊一			

徳久俊彦理事長が退任 新理事長に若槻史郎氏

東京YMCAには「公益財団法人東京YMCA」と「学校法人東京YMCA学院」があり、学校法人は「しなのめYMCAこども園」「江東YMCA幼稚園」「医療福祉専門学校」の3つの事業を運営しています。この学校法人で6月、4年に一度の役員改選があり、通算39年にわたり理事を務め内11年間は理事長として貢献された徳久俊彦さんが退任し、新たに若槻史郎さんが就任。他理事・評議員も大幅に改選されました。

退任に際して



前理事長 徳久 俊彦

私は去る6月16日、学校法人東京YMCA学院理事長を退任いたしました。前任の加美山節さんから引き継いでから11年になります。さかのぼればこの学校法人が出来た1981年に理事に招かれて以来39年になります。今年になって91歳となり、東京YMCAの名譽会員に推されることになりましたので、「退き時」となりました。振り返りますと東京大

緑で東京YMCAに関わるようになったのが1954年。学生寮「山手学舎」が新設され、その運営委員を仰せつかった時からでした。それは今から66年前、アメリカとの講和が出来て、「戦後体制」が終わり、今の日米関係が出来た頃です。その後高度成長の波に乗り戦後復興が実現し今日に至るのですが、テレビが普及し、コンビニができ、スマホが広がり世の中はすっかり変わりました。この間、さまざまな形で助けてくださった沢山の方々に心より御礼を申し上げます。

私は加美山さん及び

就任にあたり



新理事長 若槻 史郎

2年前、YMCAでも教会でも大先輩にあたる徳久俊彦さんから、日曜日の礼拝の後で昼食のお誘いを受け、学校法人東京YMCA学院の理事長としての奉仕を薦められました。私は非力を承知しながらも、東京YMCAには58年間にも及ぶ長きにわたってお世話になっていることもあり、この大役をお引き受ける覚悟を決め、本年6月の

理事会でその後を継ぐことが決定されました。1963年6月20日、私は学生寮「東京YMCA山手学舎」に入舎し、人生が変わるほどの貴重な日々を経験させていただきました。入舎時、先輩であり、のちに東京YMCAの職員になった本行輝雄さんから聖書を贈呈されたことを今も鮮明に覚えています。そこに記された聖句「愛する者たちよ、私たちは互いに愛し合おうではないか」(『ヨハネの手紙一』4章7-8節)に、今あらためて後押しされながら、新たな東京YMCA学院への奉仕に就く次第です。よろしく願っています。

今世界は、新型コロナウイルス感染症による、100年に一度ともいわれる未曾有の災禍の只中にあります。分断と格差が進み、弱者や貧しき人々にその災いは顕著です。混沌と恐怖が世界の隅々に広がり、すべての人びとが、これまでの人びとと、世界観を根底から問い直されているといえます。今こそ互いの差異を超え、共生していくことを願っています。

な地球の姿を実現していく決断が希求されています。

「カミユの「ベスト」に登場する医師ヘルナール・リウは、「絶望に慣れることは絶望より悪い」と言い、「今起きていることを記憶し」「誠実に自分の仕事を果たす」と、内なるベストと闘いであると表しています。

東京YMCA学院も今一度ミッションに立ち返り、職員・会員・関与者すべてによるポトムアツプ型の運動体として、翼を広げていくことが求められています。皆さまと共に、夢と希望の実現に向かい、一歩一歩踏み出して行きたいと願っています。

開園に間に合っって胸を撫下したことを覚えています。経営としては、医療福祉専門学校の生徒募集にも苦慮しましたが、徐々に明るい兆しが見えて来ております。

本年度はこの施設もコロナウイルスにより、4月・5月は動けず、6月になってやっと動き出したところ。」「コロナ」で働き方も社会も変わると言われています。私が、私はYMCAがより柔軟な組織となり、兼業勤務を認める等、先陣を切って「新しい日常」を作り、社会に必要とされる働きを続けてほしいと願っています。

東京-NY フロストパレー便り

新型コロナ肺炎によるパンデミックは未だ終息の気配も見えず、その影響は社会全体へ及び、未だかつてない規模の影響を一人ひとりの生活に及ぼし、さらに今、多くの分裂が生まれているように思います。

アメリカでは6月24日、特定の非移民ビザの発給を一時停止する大統領令が発行されました。パンデミックで多くの失業者が出たため、国外からの転勤や研修の受入等を制限し、国内の雇用を優先する措置です。7月6日には、9月からの秋学期の授業が全てオンラインで行われる場合に、米国の大学や高校の外国人留学生に対する査証(ビザ)発給を認めない旨、米移民・関税執行局(ICE)から発表がありました。これにより、約100万人とも言われている外国人留学生は、対面で授業を実施する学校への転校あるいは自国への帰国を強いられる可能性があります。これらの措置は物理的に他国とのつながりに制限を生むだけでなく、今後アメリカが向かっていく方向性について、国内においても分裂を生んでいます。

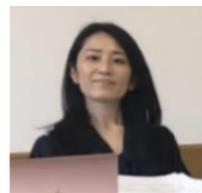
感染拡大防止のために人との物理的な接触が制限される中、私たちは他者とのつながり方、社会とのつながり方を上手に見いだせず、孤独を感じているのかもしれませんが。逆の見方をすれば、直接的な他者との関わりがいかにか私たちの精神的安定に影響しているかが分かります。

フロストパレーYMCAは7月からロッジレンタルを、8月には近隣住民を対象としたデイキャンプを開始します。未だ多くの制限を抱えながらではありますが、約4カ月の空白期間を経てキャンプサイトをゲストに開放し、プログラム提供をスタートできることを嬉しく思います。東京パートナーシップは、今夏はオンラインプログラムに特化し、この状況下において家族以外の他者との関わる機会が激減している子どもたちに新しい出会いやつながり、創造的で楽しい時間を提供すべく、5日間×6セッションのプログラムを実施しています。「オンラインでここまで楽しめる」「さすがYMCA」と、参加者から多くのうれしい感想もいただきました。直接触れ合うこともできず、1日数時間の画面越しのつながりであるにも関わらず、子どもたちがお互いを知り合い影響し合っていく様子は当初想像していた以上でした。以前のように、仲間や友人、他者と直接的に関わり合うことができるようになるまでにはまだしばらくの時間がかかりそうです。しかし中でも、一人でも多くの方々が他者や社会あるいは「何か」と、「はなれていてもつながっている」と感じられるような手助けをしていきたいと心から願っています。

(東京-フロストパレーYMCA
パートナーシップ 鳩山 徹郎)

オンライン講演会「うちの子にぴったりの進路って?」

東京大学先端科学研究センター
「異才発掘プロジェクト」 吉本智子さん講師に



東京YMCA高等学院は今年度、公益財団法人倶進会からの支援を受けて、家族支援の場を拡充する取り組みを始めました。とくに春先からは新型コロナウイルス感染症の感染拡大によってストレスが増幅され、家族の支援はさらに急務となりました。まずは、オンライン上で保護者会を2回開催し、6月26日には、「うちの子にぴったりの進路って?~おとなの方が視点を変える~」と題してオンライン講演会を開催しました。

講師には、さまざまな支援現場を歴任され、現在は東京大学先端科学研究センターの「異才発掘プロジェクト“Rocket”」で活躍しておられる、吉本智子さんをお迎えしました。吉本さんからは、支援のポイントとして、

- 本人よりも、周りの方が困っている場合がある。
- その人を変えようとするより、周りや環境を変える。
- また進路を考えるときのポイントとして
- 本人が選べるようにすること
- 本人の気持ちが動く時を待つこと
- 諦めないで何度も刺激を出し、試すこと

などが話されました。経験豊富な吉本さんの言葉に、視聴者は大いに励まされました。

貴重な機会を支援してくださっている倶進会に感謝します。
(東京YMCA高等学院 学院長 井口真)